

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会
（第4回）議事要録

- 日時 平成28年12月20日（水）19時03分～21時14分
- 場所 市役所西棟8階811会議室
- 出席 小澤紀美子会長、早川峻委員、高橋豊委員、村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、島英二委員、興柁信子委員、木村文委員、千綿澄子委員、平田昭虎委員、山崎君枝委員、越智征夫委員、高石優委員、島森和子委員、新垣俊彦委員
事務局（堀井副市長、木村参事他）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊部長他）、傍聴者3名
- 欠席 水谷俊博副会長、高橋健一委員、岡田敬一委員、花俣延博委員
- 配布資料 1. 第3回協議会（11月30日開催）以降の動向について
2. 「エコプラザ（仮称）事業中間まとめ」（案）
3. 施設・周辺整備の基本方針
4. エコプラザ（仮称）事業具体的な取り組み体系図（案）
5. イベント記録集
6. 環境啓発施設視察記録集

1. これまでの経過

- ・「第3回協議会（11月30日開催）以降の動向について」、「『エコプラザ（仮称）事業中間まとめ』（案）」、「施設・周辺整備の基本方針」について事務局より説明を行った。
- ・委員 「エコプラザ（仮称）事業中間まとめ」（案）については、委員各位の意見の通り、市民会議に出す資料として、もう少し簡潔に調整して頂ければと思う。事業が多く書かれているということについて、今まで議論してきたものを整理してようやくここまでの数になったため、市民会議の中で具体的に議論していただければと思う。それから、一番議論して頂きたいのは、「30年後の武蔵野市の姿」と、3ページに記載した箇所であり、「クリーンセンターの焼却量」や「CO₂排出量」については実現性を含め議論が必要と考えている。そして、11ページの「5. 施設づくりの基本方針」という項を追加している。それは、前回の協議会で、本当に市民がここに来る魅力づくりができるのかという意見があったため、空間づくりも含め、考えたほうが良いということから、これを追加した。市民会議になってからの議論かとも思ったが、少し踏み込んで記載している。3つの柱を立てているが、これも今まで議論して出てきた意見を私なりに整理している。①番は、事業や管理運営にとって望ましい空間の作り方をすることを記載している。②番は、空間自体が低炭素化とかごみ減量化を思わせるような空間づくりを工夫したほうが良い。これもずっと、そのような議論をしてきたと思っている。③番の「魅力的で心地よい空間づくり」というところは、誰がどのように運営するのかというのはこれからの議論になりそうだが、この空間が、来た人にとって心地よく、魅力的だと思えるような作り方にしていく必要がある。あるいは芝生広場との関係なども含めて魅力づくりを考えていったほうが良いと考える。それから、その隣の13ページの【資料編】に「エコプラザ（仮称）今後の検討の進め方」とあるが、議論の進め方について、私が考えたものを整理した。これは事

事務局の方で整理し、作成した方がいいと考える。この「基本構想の策定」という部分を我々協議会では議論していて、それをベースに来年から市民会議で議論するが、基本構想が固まったら、事業主体の決定方法や、部屋を貸す場合の利用時間や料金、運営組織体制等を含めて事業予算はどれくらいにするのかということ議論し、検討していくことになると思う。それができれば、最終的には、公の施設にするのであれば設置条例をつくるなど、法令の手続きをして、最終的にはオープンになるということを入れておいた方がいいと思っている。それから、14ページで、環境教育というのは、ここでも議論したように、やらなければいけないことだと思う。ただ、エコプラザだけでやるということではないと私は感じているため、実際にどういうふうに展開していくのか、それにエコプラザがどのように関わるのかということは大きな議論のテーマになってくると考える。それから、エコプラザはごみだけではなく、ごみ以外のテーマについてどうするか。これは市民会議での議論になってくると考える。低炭素化の部分は、3本のテーマの1つの柱になっていくわけだが、具体的にそれをどのように実現していくのか、二酸化炭素の排出量を半分にしていくためにどうするのかということは全く議論できていないため、それは市民会議以降、議論しなければいけないと考える。それから、事業者に対するごみの減量化が大きな課題だということが、この協議会でもよく出てきたが、それに対してエコプラザとしてどのように受けとめて、何をするかということは重要なことだと思っている。それ以外にも多くの課題があると思うので、これから気づいたものを課題として挙げていった方がいいと思っている。

- ・委員 目次の記載の仕方が章ごとに異なり、分かりにくいいため、統一した方がいい。
- ・会長 その対応は事務局と私のほうでらせていただく。
- ・委員 あと、最後に追加して頂いた22ページの資料について、今後、市民会議に出す資料としては、25ページに整理して頂いた公の施設という資料に合わせて事例を整理して頂きたい。まず公の施設なのか、そうではないのか。公の施設の場合は、運営の方法として直営か指定管理か、公の施設でない場合は、運営する団体、主体と市はどのような契約形態があるのか。そういう整理で、今まで見てきた事例を整理してもらおうと市民会議での議論に役に立つと思う。

2. エコプラザ（仮称）事業資料について

- ・「エコプラザ（仮称）事業具体的な取り組み体系図（案）」について、事務局より説明を行った。
- ・委員 関係性としてはこれでいいと思うが、単純に表にしたほうがもっとわかりやすい気がする。（つかう・ふれあう）の上位に【管理運営】が来るのではなく、（つかう・ふれあう）も（ささえる・はぐくむ）と同列にして、その下位に【管理運営】が書かれているという形にしたほうがわかりやすいのではないかと。要するに、上位に3つの柱があって、その下位に事業を実施することと管理運営の中でやることという、この表の作り方だけだと思う。（つかう・ふれあう）に下の「聞く耳を持つ人」、「広報」、「新クリーンセンター（仮称）との連携」、「カフェ・ショップ、その他の運営」などが関連づけられることではいいとは思っている。「広報」も施設の広報が大事だと思っており、事業の宣伝という部分もちろん必要にはなってくると思うが、エコプラザの施設概要、運営、空間、目標など、どういうことをやっているのかという広報が結構大事だと思っている。「新クリーンセンター（仮称）との連携」は前提としてあると思うので、この位置づけもこれでいいのではないかと。

- **会長** 「広報」について、若い母親などに、子どもが幼稚園等に行っている間、エコプラザで勉強した事をSNS等で発信してもらい、子どもが幼稚園等から帰る際にエコプラザで一緒に遊んでもいいのではないかとというイメージを持っていた。なぜそういうことを思っているかというと、東北の震災復興のときに、あるプロジェクトで検証したことがある。若い方に参加してもらおうと、幅広い事業につながっていくと思っている。
- **委員** 前回紹介した、国立の谷保にあるChika-baという工房長制度を取り入れている場所などは、立派なホームページは一切作っていない。ほとんどがSNS等で発信している。常にやっていることを手軽に手元で発信しているのが主流になっている気がする。何がいいかということ、フェイスブックで見て、現場に行って、そしてそこで体験したことを、参加した人がまた発信する。発信するということは、情報を伝搬しているというだけではなくて、その人なりの見方で自分の体験したこととか見た様子などを編集して発信していくことになる。誰かの視点で編集されたものが面白いと思って、現場に行って、さらにまた体験した人が自分なりの視点で編集して発信するということが連鎖的に広がっている。いろいろな感覚が伝わって、いろいろな感覚のある人がそれぞれつながって、結果的に同じ場所に集まってくる。これが、SNSが広報を大きく変えた部分だと思う。だから、エコプラザでも、地域の中での展開というものもすごく重視しているため、そこは意識したほうがいいと思う。最終的にはそれがごみ減量化につながっていくということだと思う。
- **委員** 今のお母さん方が「わいわい広場」や「子育てルーム」等を利用している中で、おむつの改良など、いろいろな意見が飛び交っている。若い母親に資料をつくってもらうのは負担になるが、子どもを育てているから多くの実体験を持っている。それを広げていったりすると、次の世代の者にすごく役立つ。
- **会長** 武蔵野市からごみに関するマンガが発行されてもいいのではないかと思います。子どもの中からごみの絵本ができていいと思う。そういうことで期待していきたい。

• イベント記録集

- 「イベント記録集」について、事務局より説明を行った。
- **会長** 食品の展示、クイズラリーというのが入口に近いところにあったが、子どもたちがとどまらなかった。これは、やり方を変えればもっと子どもたちに食品の無駄などに気づいてもらえるかと思ったりした。ごみの量を30年後に半分というときに、武蔵野市のいわゆる一般ごみで出てくるのは食品残渣が多いのか。その辺がわからないので教えていただきたい。
- **委員** 3年前にごみ総合対策課で、抜き打ちで、プライバシーには触れない範囲で、収集ごみを開けて全部チェックして、内容物の比較検討、重量も確認したが、食べ残しが多い。特に高齢者の袋から全く手のついていないものがそのまま捨てられていた。生活のあり方がそこで見えてきて、そのあり方をどういうふうに変えていくかということに踏み込んだいろいろな作業ができるかと思った。その傾向は今も変わっていないと伝え聞いている。
- **会長** 武蔵野市の全体のごみの量はわかるが、展示の仕方を工夫すると、もう少し子どもたちがとどまって、手つかずのものが出ているというところに気づいて、ごみ減量につながるなど、そういうことも感じた。クイズ形式的な図示だけだとみんな素通りしてしまう。それと年輩の方が一緒にご飯を食べる日を増やすなど、もしかすると、そういった社会システムのほうにい

かないといけない。みんなでともに食卓を囲むということもあり得るかもしれない。コミセンの仕組みの活用の仕方までいってしまうのかもしれないが、そのようなアイデアも出すということも、このエコプラザからは大事になってくるかもしれない。

- **委員** 2ページ目のペットボトルオブジェの作成者は、武蔵野美術大学でなく武蔵野美術大学学生有志にさせていただきたい。それから、このプロジェクトに関わって、とても学びが多かったので、今後もし、こういうふうな試みをするのであれば、何を作るのか、企画するところからプロジェクト化して、子どもたちなどにも声をかけて、これも宣伝になるので、ペットボトルを集めて一緒に作って行って、イベントが終わった後に分解して分別するところまでを1つのプロジェクトとして行うようなことができればいいと感じた。

• **環境啓発施設視察記録集**

- 「環境啓発施設視察記録集」について、事務局より説明を行った。

- **委員** 確か京エコロジーセンターには図書スペースの中にキッチンがあったと思う。食育に関するワークショップなどに使うことがあると説明を受けた。先ほど会長も言われていた食品ロスの取り組みなどをやるのだったら、エコプラザにもキッチンが必要かもしれないと感じた。

- **会長** 今は京エコロジーセンターの館長は高月先生で、京都大学の環境保全センターでごみの組成分析等を行っている人で、ごみ減量や生ごみを減らす等の研修も含めて京エコロジーセンターでやると伺っていたため、そういうことであると考えます。

- **委員** 今までキッチンスペースを作るという議論はなかったが、そういう意見も今後出てくるかもしれない。それから、アーツ千代田3331で一番学んだのは、千代田区の方針に沿ったことをやる事業体として、合同会社に定期借家で5年間貸している。だけど、合同会社の運営は独立採算でやっている。だから、区や区民が目指していることを、民間の会社が独立採算でやっているということ。ここがすごく新しいというか、現代的なところ。立地の良さと空間の作り方を最大限生かした形で区民のニーズにも応えているということだ。そこは一番学んだところだと思う。それから、エコにこセンターはNPOが運営していたと思うが、木っ端材を販売しており、そこには手書きで、木っ端材はどれでも1個20円と書いてあって、これを見て私はすごくげんなりした。もう少し見せ方を考えたほうがいいのではないかと言いたくなった。これはNPOとはいえ、委託費は年間1,600万円という予算をかけている。そういった施設が一方であって、そうではなく、公費は余り使っていないが、素敵な施設を運営しているところもある。そういう違いがあるということ。そこから学ぶことはすごく大きいと思った。港区のエコプラザは7,000万円使っているということだが、ここで事務局にお願いしたいのは、せっかくこれだけ見てきたので、お金の話をきちんと整理してほしいと思う。年間の事業費、要するに収支の状況。指定管理の場合は指定管理料や、それ以外に事業収入や補助金等を得ていたりするのか、内訳を含めた比較ができるようにしてもらいたい。今後市民会議で議論するときには絶対に必要になってくると思うため、そういう視点で整理をしておいてもらいたい。それから、委員意見の中で、経営感覚が必要ということがあったが、私が今回の中間まとめを整理した中で、事業費に係る部分は驚くような予算が必要とは思わない。5つのつぶやきの中で映画をつくるプロジェクトを例示したが、そんなお金はどこから出てくるのかとの疑問があるかもしれない。そうしたプロジェクトの予算面も、単純に行政からの補助金を期待する

のではなく、どのようにお金を得ていくかということも含めて市民のプロジェクトにしていけばいいと思っている。

- **会長** 手書きの広告で全国から客を集めた旭山動物園の例もあるため、全てを否定できない。手書きで上手に書ける方たちもいるかと思うので、あるいは旭山動物園のように、あそこから絵本作家のあべ弘士氏が生まれているため、もしかすると、ごみの絵本から世界に向けて絵本作家が出るかもしれない。そういった夢も私たちも持って進めていきたいと思う。
- **委員** 私たちは今映像を見て、いろいろなところを見てきたと今思い返していたが、エコプラザについて夢というか、いろいろな考えが皆さんの中にもきっとあると思う。実際に委員が言われたように、予算や経営面も大事なことだが、まずその前に、市民会議のほうでこれから話していく内容がどのようなことに視点を置いていくのかということが1つあるかと思う。また、周辺協議会で出てくる意見とすり合わせて、どういうものに重点を置いていっていいのか。いろいろ見学してきた中で、人づくりに重点を置いている施設、環境に重点を置いている施設、子どもたちに対する教育に重点を置いている施設があったが、どこに重点を置くかによって全然作り方が違ってくる。建物の広さも限られているため、私たちは何を一番望んでいるのかということこれから話していくと、もう少しわかってくるかと思っている。
- **会長** 基本的には第一期のときからの議論の延長、基本方針のところに書いてある3つのもの、それが単に物を示すことでできるのか、人づくりをしてできるのか、あるいは雇用を増やすとか地域力を高める、コミュニケーション能力を高めることでできるのか。その辺は市民の方にも入っていただき、そしてこの周辺協議会と議論して固めながらやっていくということではないかと考えている。ただ、一期目にやってきた底流は変わらないと思う。どこに重きを置くかによって、皆さんがやってきたいろいろな事業の重点化というのはまた違ってくると思う。それは市民会議だけで全て決めるわけでもないし、お互いにすりあわせも必要だと思うので、ぜひ意見をいただきながらやっていきたいと思っている。
- **委員** 市民会議で、やはり空間性というのがすごく気になっている。今まで見学した施設は全部閉鎖的というか、建物の中で収まっている。3331も、外とのつながりが余りない建物ではないかと思うが、武蔵野の特異性というのは、芝生広場があって、プラットフォームは車でそのまま中まで入れる可能性もあるため、そういうものをうまく利用すると、また違う活動や夢が広がると感じている。空間性についても各施設の特徴がわかると、それに比べて武蔵野のメリットや、できることの可能性についても議論ができると思う。
- **会長** 3名の委員には市民会議のほうにも入っているため、ぜひ、周辺協議会との橋渡しをお願いしたい。

3. その他

- **参事** 市民会議に持っていく資料の作成を会長と協議しながら、また今回選出された3人の委員の方にも意見を聞きながらまとめるため、時間をいただきたく、第5回協議会は、2月3日であればと思っている。その間に、まとめができた段階で庁内推進本部にも情報提供していきたいと考えている。